

2024年3月期

第3四半期 決算説明資料

第100期：第3四半期累計期間
(2023年4月1日～2023年12月31日)

2024年2月1日

思いをこめて、あしたをつくる
Passion in Creating Tomorrow

太平洋工業株式会社

1. 2023年度 第3四半期業績
2. 2023年度 通期予想

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 3Q 連結業績



堅調な自動車生産により販売物量が増加し、売上・利益ともに過去最高

(億円、%)

	2022年度 3 Q 累計実績	2023年度 3 Q 累計実績		前年同期比	
		過去最高		増減	増減率
売上高	1,434	過去最高	1,559	+125	+8.8
営業利益	56	過去最高	112	+55	+97.5
営業利益率	4.0%		7.2%	+3.2P	－
経常利益	85	過去最高	143	+58	+68.4
経常利益率	5.9%		9.2%	+3.3P	－
親会社株主に帰属する四半期純利益	62	過去最高	109	+47	+75.9
四半期純利益率	4.3%		7.0%	+2.7P	－
平均為替レート（米ドル）	135.4円		143.2円	+7.8円	－

※2022年度第4四半期以降、プレス鋼材の有償受給化による売上高と売上原価の相殺表示対象増加により、売上高が減少しています。

2023年度第3四半期累計実績には、上記影響により、前年同期比226億円の売上高減少が含まれています。利益への影響はありません。

1-2 3Q 連結売上高 増減要因

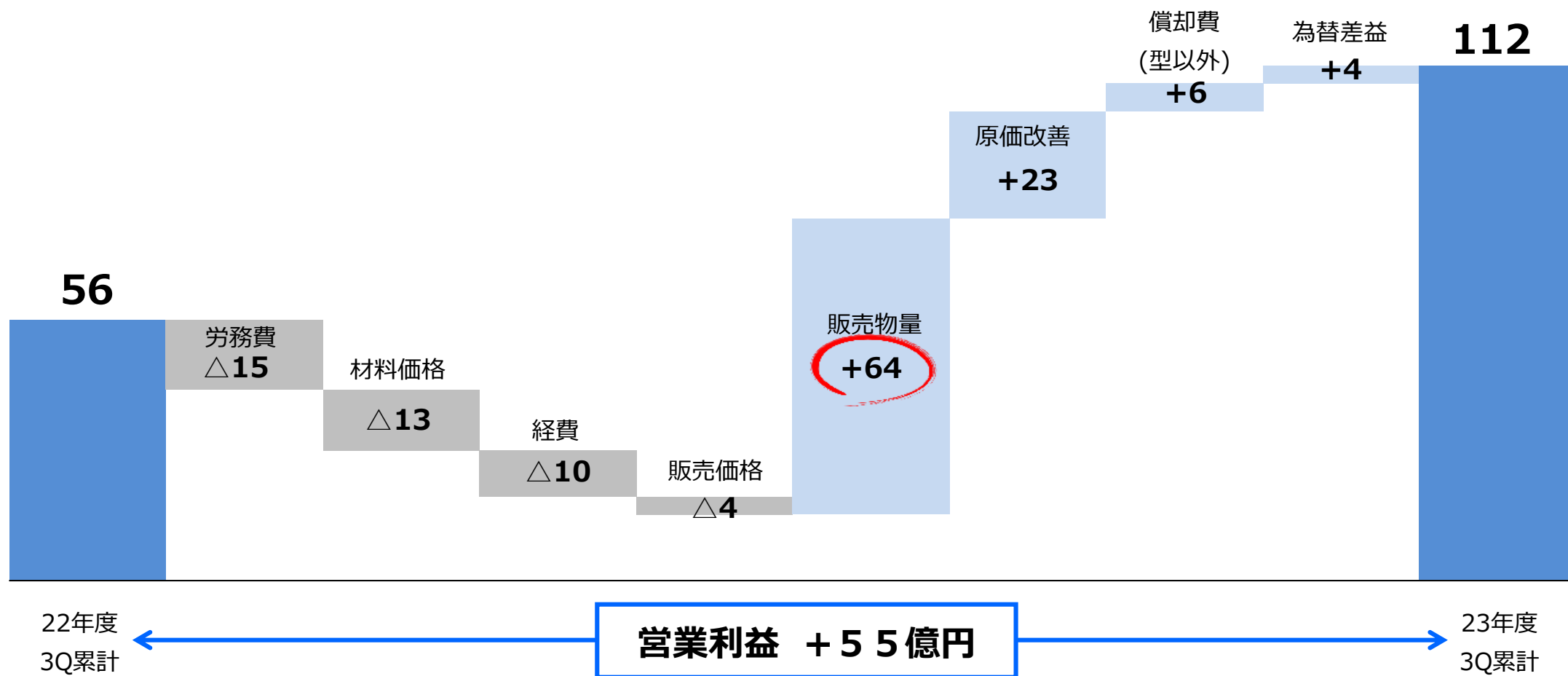
プレス鋼材有償受給化による減収以上の販売物量増加により、3Qとして過去最高



1-3 3Q 連結営業利益 増減要因

生産物量増加によりコストは増加、販売物量増と原価改善により3Q累計で過去最高益

単位: 億円



1-4 3Q 連結事業別セグメント

プレス・樹脂は増収・増益、バルブは増収・減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	22/3Q 累計実績	23/3Q 累計実績	前年同期比		22/3Q 累計実績	23/3Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
プレス・樹脂	1,027	1,130	+103	+10.1	20	78	+58	+286.5
(プレス鋼材有償受給化影響)		※ (△226)						
営業利益率					2.0%	7.0%	+5.0P	
バルブ	405	427	+21	+5.3	36	33	△2	△7.3
営業利益率					8.9%	7.8%	△1.1P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

1-5 3Q 連結地域別セグメント

日本・欧米は実質的に増収・増益、アジアは前年並みの売上高で減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	22/3Q 累計実績	23/3Q 累計実績	前年同期比		22/3Q 累計実績	23/3Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	553	536	△17	△3.1	35	59	+23	+65.1
(プレス鋼材有償受給化影響)		※ (△226)						
営業利益率					6.5%	11.1%	+4.6P	
欧米	559	703	+144	+25.8	△13	25	+38	-
営業利益率					△2.3%	3.6%	+5.9P	
アジア	321	319	△1	△0.4	29	18	△11	△37.9
営業利益率					9.2%	5.8%	△3.4P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

1. 2023年度 第3四半期業績

2. 2023年度 通期予想

2-1 通期 連結業績予想

3Qの実績を踏まえ通期予想を上方修正、売上・利益ともに過去最高を見込む

(億円、%)

	2022年度	2023年度		前期比		前回予想比	
	通期 実績	通期予想		通期		通期	
		10/26発表	今回見直し	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,912	1,980	※2 2,000	+87	4.6%	+20	1.0%
営業利益	92	120	130	+37	39.8%	+10	8.3%
営業利益率	4.9%	6.1%	6.5%	+1.6P	—	+0.4P	—
経常利益	132	150	160	+27	21.1%	+10	6.7%
経常利益率	6.9%	7.6%	8.0%	+1.1P	—	+0.4P	—
※1 当期純利益	93	105	115	+21	23.6%	+10	9.5%
R O E	7.0%	7.1%	7.8%	+0.8P	—	+0.7P	—
R O A (営業利益ベース)	3.7%	4.5%	4.8%	+1.1P	—	+0.3P	—
一株当たり純資産	2,309円	2,712円	2,678円	369円	16.0%	△34円	△1.2%
平均為替レート (米ドル)	134.9円	140.0円	142.2円	7.3円	—	2.2円	—

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

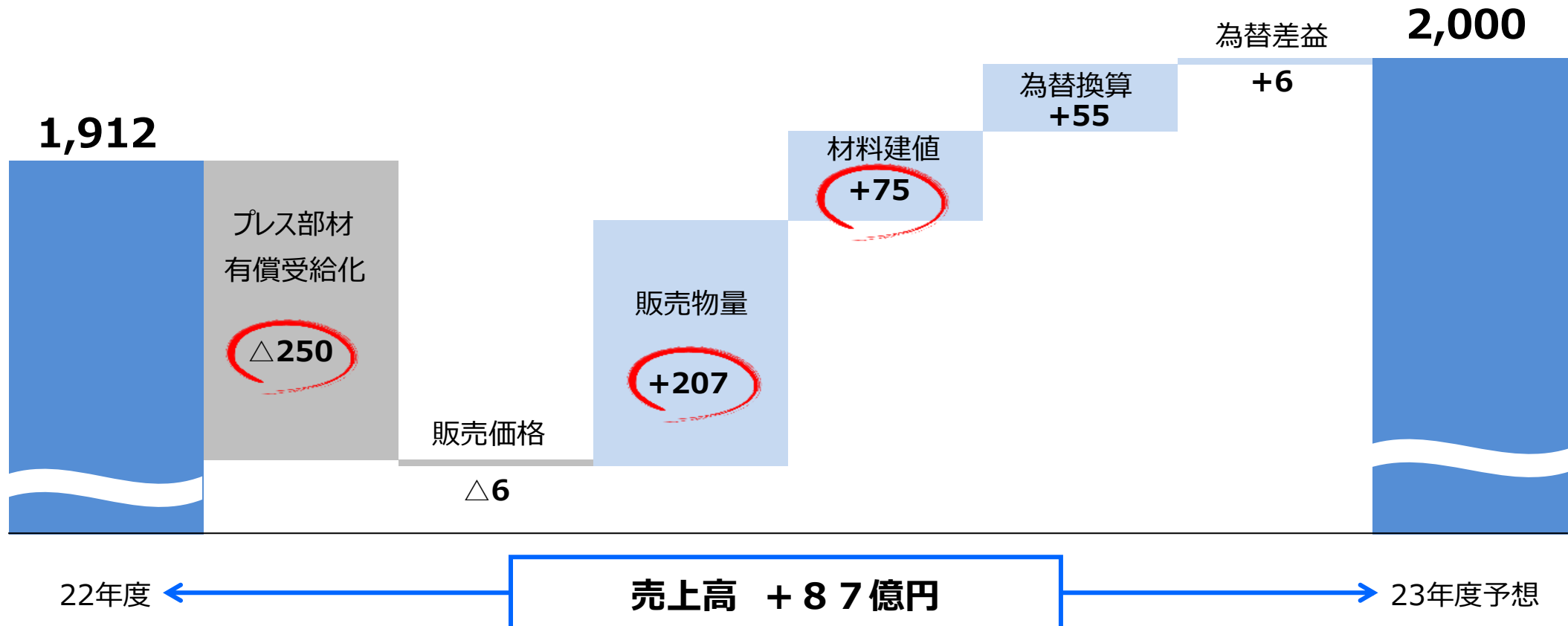
※2 2022年度第4四半期以降、プレス鋼材の有償受給化による売上高と売上原価の相殺表示対象増加により、売上高が減少しています。

2023年度は、上記影響により、前期比250億円の売上高減少が含まれています。利益への影響はありません。

2-2 通期 連結売上高 増減要因

プレス鋼材有償受給化による減収を販売物量増加でカバーし、過去最高となる見込み

単位: 億円



2-3 通期 連結営業利益 増減要因

生産物量増加によりコストは上昇、販売物量増加と継続的な改善で過去最高益となる予想



2-4 通期 連結事業別セグメント

プレス・樹脂は増収・増益、バルブは増収・減益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	増減率	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	増減率
プレス・樹脂	1,368	1,448	+79	+5.8	49	92	+42	+84.8
(プレス部材有償受給化影響)	(△51)	※ (△301)	(△250)					
営業利益率					3.6%	6.4%	+2.8P	
バルブ	542	550	+7	+1.5	42	38	△4	△10.8
営業利益率					7.9%	6.9%	△1.0P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

2-5 通期 連結地域別セグメント

日本・欧米は実質的に増収・増益、アジアは減収・減益を見込む

(億円、%)

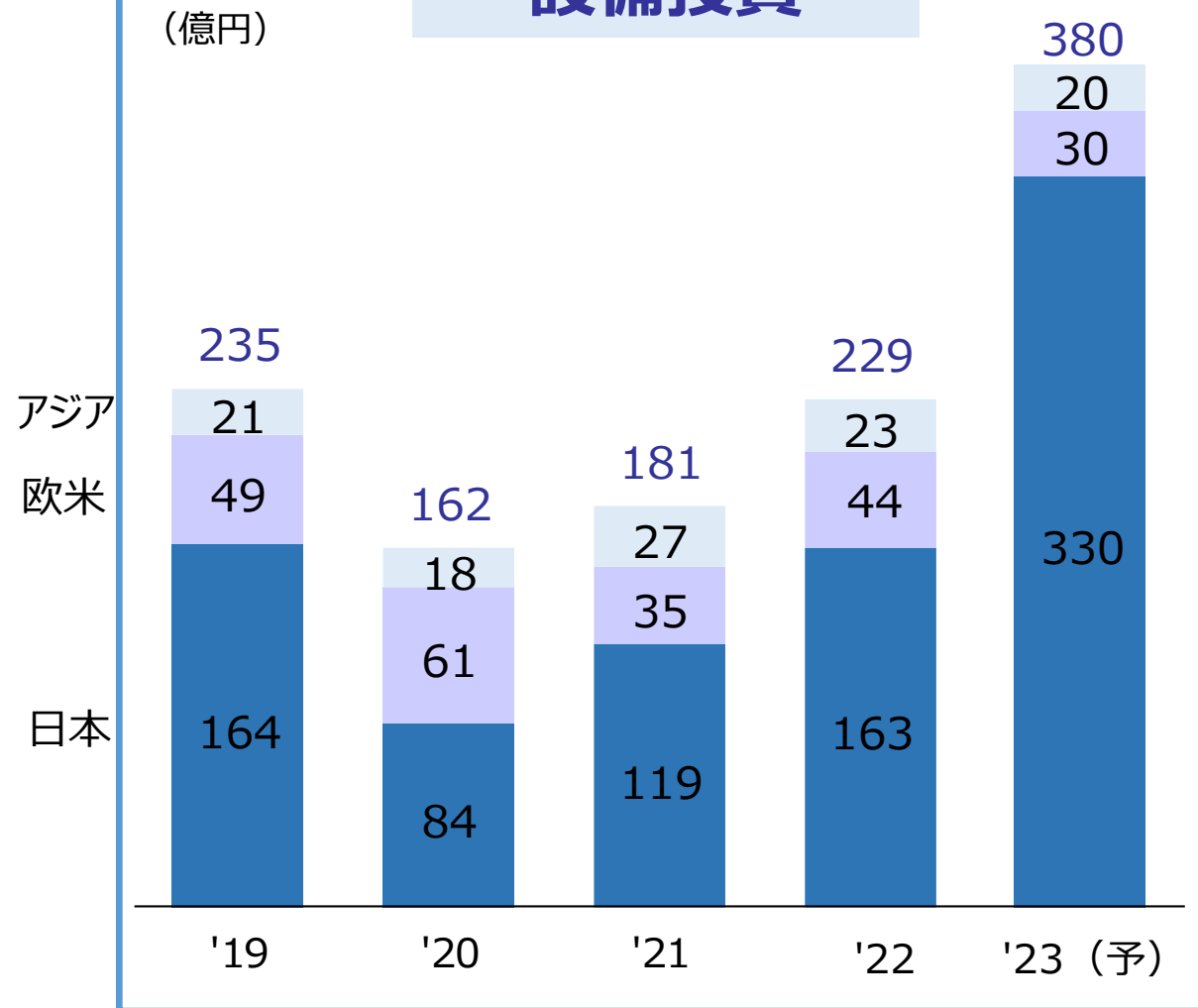
	売上高				営業利益			
	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	増減率	2022年度 実績	2023年度 予想	増減	増減率
日本	706	685	△21	△3.0	49	63	+13	+26.3
(プレス部材有償受給化影響)	(△51)	※ (△301)	(△250)					
営業利益率					7.1%	9.2%	+2.1P	
欧米	781	900	+118	+15.2	△1	30	+31	-
営業利益率					△0.2%	3.3%	+3.5P	
アジア	425	415	△10	△2.4	36	28	△8	△24.1
営業利益率					8.7%	6.7%	△2.0P	

※2022年度第4四半期より、プレス鋼材有償受給化による売上減少が含まれています。利益への影響はありません。

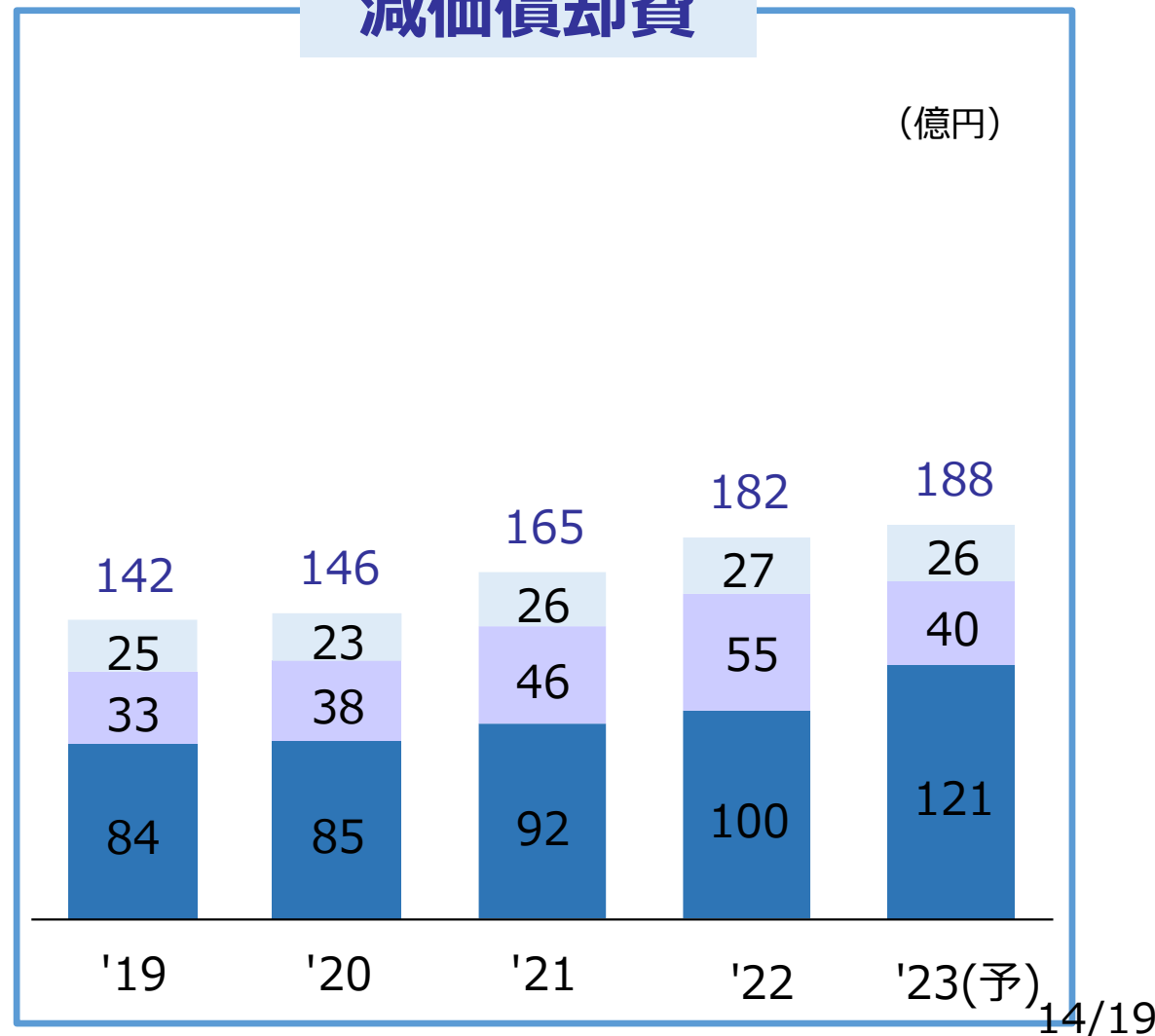
2-6 連結設備投資・減価償却費

資本効率を意識しながら新プレス工場やバルブ新製品生産ラインなどの積極投資を実施

設備投資

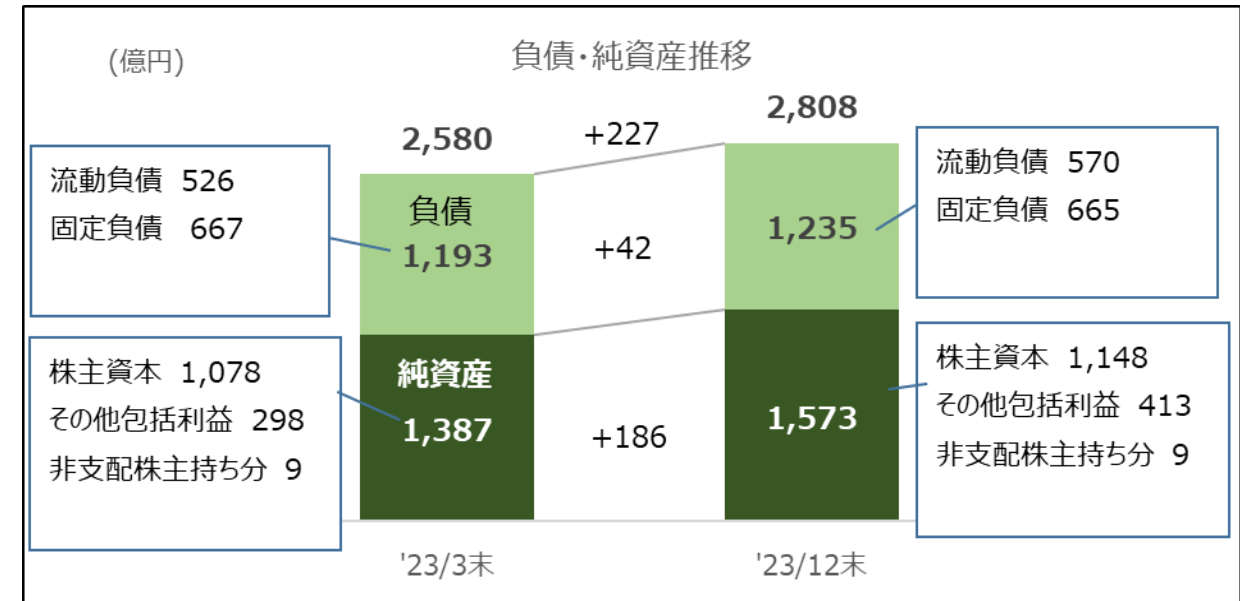
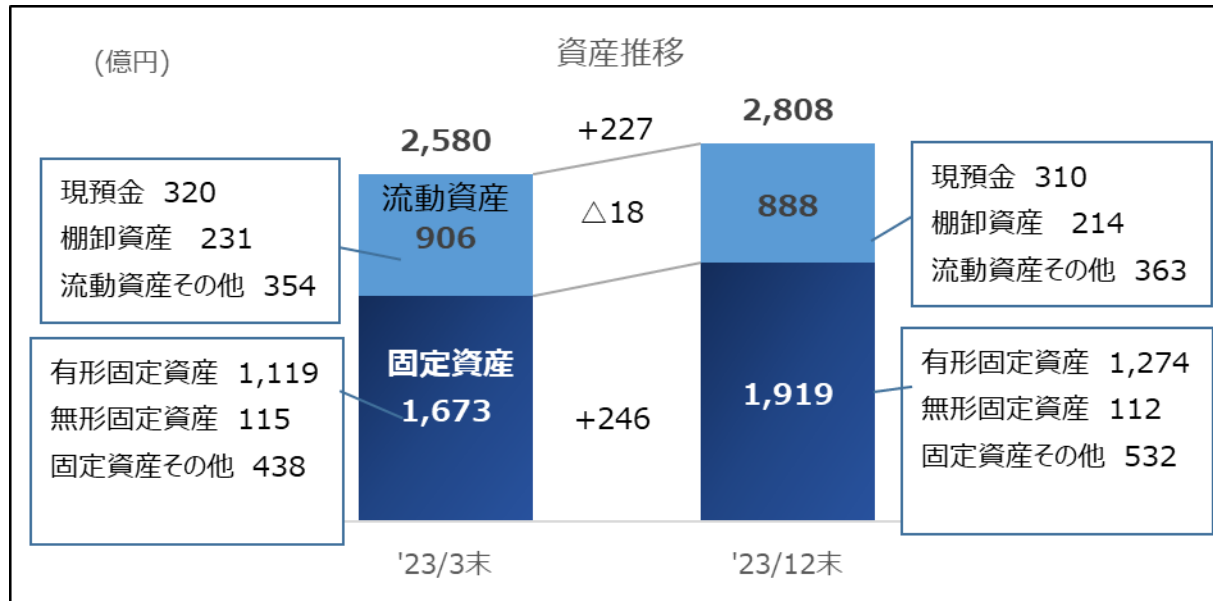


減価償却費



2-7 連結貸借対照表

新プレス工場等の投資、政策保有株式の時価評価により固定資産増加
政策保有株式は純資産に対し20%以下を目安として、順次売却を推進



<主な増減内容>

資産

- ・有形固定資産 +155 (新工場投資等)
- ・固定資産その他 +93 (保有株式の時価評価)

負債

- ・仕入債務等 +65
- ・有利子負債 △48

純資産

- ・四半期純利益 +109
- ・剰余金配当 △26
- ・その他包括利益 +115

2-8 トピックス

顧客提案力の強化と生産性向上により、既存事業の競争力を向上

プレス受注拡大



- ・顧客とのコミュニケーション強化と、超ハイテン技術を活かした提案活動により、多くの新規受注を獲得
- ・衝突性能と原価低減を両立し、高剛性ボディの確立に貢献

新プレス工場稼働状況



- ・超ハイテン部品、HEVバッテリーケースなど、プレス製品を量産
- ・工程の流れに沿った効率的な生産ライン
- ・自動搬送、AGV導入により生産性向上
- ・工場、オフィスの働きやすさを向上

2-9 トピックス

IoT技術や新しい発想を活かし、顧客・社会課題解決につなげる

「e-WAVES」 新モデル



マルチセンシングロガー「e-WAVES」新モデル

- ・遠隔でリアルタイム温度管理が可能
- ・製品ラインナップ拡充、計測項目を絞ったエントリーモデル販売開始

IoT新商品



現場改善ツール「直Q楽R（ちよっきょうらくらく）」

- ・現場のペーパーレス化、品質向上、業務効率向上を、簡単・低価格で実現



嚥下チェッカー「ゴック音」

- ・唾液の飲み込み回数を簡単に計測
- ・手軽にオーラルフレイルをチェック

アップサイクルブランド



アップサイクルブランド「LcycL」（エルサイクル）



思いやり吸音パネル

- ・アップサイクルブランド商品 販売開始
- ・自動車部品の製造過程で発生した廃材を資源として活用

2-10 来期に向けて

経営環境の変化によるリスクの最小化と機会の最大化に取り組む

■ 経営環境の変化

リスク	・原材料、エネルギー価格高騰の継続 ・日米金融政策の変化による為替変動、北米景気減速懸念
機会	・電動化の進展による、新製品需要の拡大

■ 今後の取り組み

事業	・原価改善・価格転嫁の推進、収益体質の強化 ・電動化ビジネス機会をとらえた既存事業の拡大 ・非自動車分野の開発スピードアップと、更なる新規事業の発掘
財務	・投資効率向上、バランスシート改善による資本効率向上 ・ROE向上とIRの充実によるPER、PBR改善



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow